

ホッキョクグマ 3分の2死滅も 米科学者チーム「2050年までに温暖化で」

9月8日 17時5分配信 産経新聞

米内務省の科学者チームは7日、北極圏に生息するホッキョクグマの3分の2が2050年までに、地球温暖化による海水の減少で死滅するとの予測を発表した。

昨年末にケンプソン内務長官が、アラスカに生息するホッキョクグマを米絶滅危惧（きぐ）種法で保護の対象となる「絶滅危惧種」に指定を提案。今回の調査は指定の判断に必要なデータ収集のため、内務省傘下の「米地質学調査（USGA）」が行った。

北極海の氷は、ホッキョクグマがエサのアザラシを取ったり、子育てしたり、生息に欠かせない場所だ。夏場に海水が解けてしまうと、陸にあがったクマの体重は減り、子グマの生存率も低下するなど、生息を大きく脅かす。

しかし、USGAの調査によると、地球温暖化の進行によって北極圏の海水は今世紀半ばまでに42%が解けてなくなり、その結果、生息数の3分の2が失われるという。

USGAは50年時点の具体的な数は示していないが、ホッキョクグマは世界に2万～2万5000頭が生息しているとされており、6000～8000頭に減ってしまう計算だ。

温暖化の自然界への影響をめぐり、政府機関から、厳しい予測が発表されたことで、温室効果ガス削減への積極的な取り組みに向けて、ブッシュ大統領に対する圧力も一段と高まりそうだ。（ワシントン 渡辺浩生）

【関連記事】

- ・ 温暖化の脅威 北極圏の春、14日も早まった
- ・ 「海の熱帯雨林」からSOS…サンゴ礁、年3000平方キロ消失

- ・ 生息数回復、マナティーをめぐる新たな論争
- ・ 【やばいぞ日本】温暖化が生んだ新たな競争
- ・ 地球温暖化、「身近な問題」が55%
- ・ 温暖化阻止のため一肌…いや全部脱いだ！

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20070908-00000115-san-int>